

# 面影地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成29年11月21日（火） 19:00～20:10

2 会 場 面影地区公民館

3 出席者 地元出席者 42名  
市側出席者 16名

深澤市長、羽場副市長、吉田副教育長、河井総務部長、田中中核市推進局長、  
乾防災調整監、田中企画推進部長、久野地域振興局長、国森農林水産部長、  
綱田都市整備部長、植村環境下水道部長、田川秘書課課長補佐

<事務局>福島協働推進課長（司会）、宮崎協働推進課課長補佐、有本協働  
推進課主事、北村協働推進課主事

## 4 地域の重要課題について

### 1 台風第18号（9月17日）の水害被害対策について

<地域課題>

①新町内会（世帯数40）では、台風第18号発生時に道路が30cm程度冠水し、車庫  
3棟が浸水した。急遽、面影小学校に自動車を移動させるとともに、避難所（面影小学  
校）開設を要望することについて話し合いを行うなど、恐怖を感じた。原因として水門  
の管理、大杙ポンプ場の管理、水路の維持管理など様々なことが考えられるが、原因を  
明らかにし、安心して住めるようにしてほしい。

<担当部局の所見等>

#### 【都市整備部、環境下水道部】

豪雨による河川の増水や浸水防止に備え、面影地区においては「大杙ポンプ場」「洗井川  
排水機場」を設けています。通常、中代川と洗井川の水は、自然の流れによって大路川に  
排水されますが、大雨等で大路川が増水し逆流する場合は、樋門を閉鎖して、洗井川に設  
置してある排水ポンプ施設（排水機場）で強制的に大路川へ排水することとしています。

台風第18号が本市へ接近した9月17日、大杙ポンプ場においては午後9時30分、  
内水位が所定の運転水位（1.70m）に達したため運転を開始し、翌18日午前10時4  
5分まで断続的に運転し排水を行うとともに、洗井川排水機場においても、午後8時30  
分から翌午前9時15分まで運転し、排水を行いました。しかし、今回の集中豪雨に際し  
ては、排水機場での排水が追い付かず、中代川、洗井川等の河川が溢れたことによって、  
桜ヶ丘中学校周辺を含む桜谷、正蓮寺、杉崎周辺、さらには新町内会へ広範囲にわたり浸  
水したものです。

現在、浸水状況及び要因について調査中ではありますが、今後、洗井川排水機場のポン  
プの増設等について県に要望していくとともに、浸水被害解消のための対策を進めていき  
たいと考えています。

#### 【防災調整監】

大雨の際の雨量や河川の水位については、気象庁のホームページや国土交通省が提供する「川の防災情報」、鳥取県が提供する「鳥取県防災情報」などのウェブサイトや、NHKのデータ放送などで随時提供していますので、自宅周辺の状況確認の際にはご参考ください。このたびの台風の対応においては、本市としても国や県などから提供される情報を収集していますし、併せて、警戒にあっていた鳥取市消防団面影分団などから随時水位に関する情報を得るなど、現場の状況等を確認しながら対応にあたりました。

今後も、得られた情報の共有を図りながら適切なタイミングでの情報提供に努めていきたいと考えます。

(面影地区区長会長)

9月17日に発生した台風第18号は、直撃はしませんでしたでしたが、大雨が降り、地域住民から多くの不安の声が挙がりました。

1つは、袋川南側にある新町内会の被害です。袋川と直結している上、低い位置にあることから、道路が30cmほど冠水しました。車庫が冠水したため、自動車を避難させた家もあります。大きな被害はありませんでしたが、非常に不安を感じました。避難も考えなければいけないのではないかと話したこともあり、日頃の水利やポンプアップ等はどうなっているのか質問します。

地域としては、農業用水路を使用していた区域などについて、一部、水門の管理もしていますが、管理しなくなっている地域もあるのではないかと考えています。今後、担当部局と地域住民で話し合わなければいけないこともあるかもしれませんが、今考えられる方策について回答をお願いします。

(都市整備部長)

面影地区は袋川と大路川に挟まれており、地区内に降った雨はいずれかの河川に排水されています。各河川には「樋門」と呼ばれる排水の吐き出し口が数か所設置されていて、小さな雨の場合は地区内の水路等を経由して樋門から河川に水が流れ込んでいきますが、台風第18号のような大雨の時には、袋川や大路川そのものの水位が急激に上がるために水が市街地に逆流する現象が生じます。そういった現象が発生



した場合には、樋門を閉じると同時に、鳥取市が設置している大杵ポンプ場と東吉成ポンプ場、そして洗井川と大路川の合流地点に鳥取県が設置している洗井川排水機場の3つのポンプ場で地区内の水をポンプアップし、強制的に河川に排水しています。

新町内会は、正蓮寺と雲山地内からくる赤で示した水路と、東今在家と大路地内からくる青で示した水路の最下流地点となっています。

台風第18号の時は、内水が所定の水位に達したため、9月17日の21時30分から大杵ポンプ場の運転を開始しました。新公民館前の水路は三面がコンクリート構造であり、水の流れを阻害する草木等の繁茂はなかったと考えていますが、東大路と正蓮寺付近の農地及び一部道路が冠水しており、その水が赤で示した水路に流れ込んだことを確認していますので、赤で示した水路の水位が通常よりも上がったのは、この流入が原因の一つではないかと考えています。

また、桜ヶ丘中学校を含む区域で浸水が発生しました。面積にして60haと、かなりの広範囲にわたっています。今回の台風は、17日の18時から24時までの6時間の間に約150mmの雨が降ったことにより、大路川と、鳥取市が管理中の中代川、洗井川、赤石川の3つの支川の水位が急激に上昇しました。この水位の上昇で大路川への排水が困難になり、浸水したものです。通常この3本の支川の水は、それぞれ自然の流れで大路川へ流れ込みますが、大路川が増水した時には各ポイントの樋門を閉じ、県が管理する洗井川排水機場において強制排水を行っています。今回の場合は、洗井川排水機場が水を吐ききれず、結果として洗井川や中代川などが溢れたと言えるのではないかと思います。現在、浸水の状況と要因について調査を行っていますし、今後は、県が管理する洗井川排水機場について、現在設置されている4基のポンプを5基に増設していただくよう要望していきたくと考えています。

樋門管理についてご指摘いただきました。関係する河川の上流側の用水の樋門等について管理状態を点検し、適切な管理に取り組んでいきたくと考えています。

鳥取県では、何年も前から大路川の改修計画を立てておられ、年次的に河川そのものの整備を行ってきておられます。浸水被害等の発生を抑えながら進めておられますので、対策等の促進についても、今後さらに要望していきたくと思います。

鳥取県では、何年も前から大路川の改修計画を立てておられ、年次的に河川そのものの整備を行ってきておられます。浸水被害等の発生を抑えながら進めておられますので、対策等の促進についても、今後さらに要望していきたくと思います。

(防災調整監)

台風第18号の発生当時、面影分団は不眠不休で地域の警戒に当たっていました。危機管理課にも逐次浸水状況の報告は入っており、午前5時頃には、面影分団からの通報によ



って地区内が冠水状態にあるという情報も得ています。

台風第18号の時には、市内各所で冠水等が発生していました。冠水等の情報は、本市から県に情報提供を行います。道路冠水、通行止めに関する情報、災害の発生状況などは鳥取県ホームページで確認できるようになってはいますが、情報がホームページに更新されるまでに少し時間差が生じたこともありました。市内各所で同様の状況が頻発したことも一つの要因ではなかったかと思えます。

大きな被害をもたらすようであれば、テレビの字幕放送やテロップ、ラジオ等を通じてお知らせする仕組みもありますが、面影地区は避難勧告等に至るような状況ではないと判断したため、今回テレビやラジオ等での放送は行っていません。皆様への情報提供が遅れたことにつきましては、以上のような状況だったということでご理解ください。

(地元意見)

大杵2区は2つの樋門を管理しています。台風の時には市都市環境課から水位について問い合わせがありました。水位も問題ですが、樋門の所で新袋川の水が逆流した場合には樋門を閉めると以前聞いていましたので、「樋門を閉めると袋川に流れていた雨が止められてしまい、浸かる所が出てくるのではないか」、「樋門を閉める判断は誰がするのか」と質問したところ、明確な回答がありませんでした。併せて、国土交通省のカメラがあるが、国土交通省と情報共有はしているのかとも質問しましたが、これについても返事はありませんでした。

一つには、新袋川が決壊すると困るということがあります。上流にはダムがあり、ダムがあるから安心だと皆が思っていますが、近年は局地的に150mmなどの雨が降ることもあります。そのような時に、ダムの貯水機能が満水になったらどうするのですか。袋川がいっぱいになれば、ダムも決壊する恐れがあると考えています。ダムの決壊が一番怖いのですが、では誰が指示を出すのか、情報共有はどこまでするのかということが知りたいと思います。

(都市整備部長)

日頃、樋門の管理についてご協力いただき、ありがとうございます。

国や県の河川の樋門は、一義的には国や県の管理です。その管理委託を市が受け、市から地域の皆様に改めて委託しています。つまり、樋門の開閉の際には、必ず河川管理者である国土交通省や県に連絡する必要があります。数百の樋門がありますので、実際にはリアルタイムですぐに把握することはできなくても、操作状況については河川管理者との情報共有に努めています。逆流に関するご質問に対して明確なお答えができなかったことについては、いただいたご意見を持ち帰って、地域に管理していただく内容や適切な指示の仕方について十分に共有と確認を図り、今後お問い合わせいただいた際にあやふやな回答とならないよう努めていきたいと思えます。

殿ダムは国土交通省の管理であり、現地事務所も構えておられます。ダムの放流等については、雨量や貯水量、水位を踏まえたマニュアルを作成し運用されています。国土交通省が放流を行う場合には鳥取市にも一報が入ることになっていますし、そういう状況になれば、町内会長さんを通じてということになるかもしれませんが、関係する地域の皆様に

お知らせすることになるかと思えます。

殿ダムが完成したことにより、例えば国府町宮下周辺では水位を40cmから50cm程度下げることができていますので、貯水による洪水調整能力が実際に発揮されている状況です。

(担当課補足：都市環境課)

国、県の樋門は河川施設であり、河川管理者である国、県が維持・管理を行っています。鳥取市はこれらの操作及び日常点検を受託しており、さらに地元の皆様等へ委託させていただいています。

大杵の2つの樋門については、国の操作要領や操作実施細則に基づき、委託先である大杵2区に操作を行っていただいています。具体的には、新袋川の水位の上昇等により国から警戒態勢に入る指示があり、新袋川から逆流が始まる状況になれば、受託された地元の操作員の判断(国、市との相談を行うこともある)により樋門を閉じています。これら樋門操作に関する情報は国、市、操作員で共有しています。

今後は、お問い合わせに対して明確なお答えができるよう努めてまいります。

(地元意見)

また、最近、堤防でヌートリアをたくさん見かけると聞いています。堤防に穴が開いて、増水した時には穴が崩れて決壊する恐れもあると思います。

(農林水産部長)

ヌートリアは、一時と比較して減少しています。ただ、ヌートリアが掘った穴が河川にどの程度影響があるかについて本日資料を持ち合わせていませんし、どこに確認すればよいかも含め、生態や影響を調べてみたいと思います。

(担当課補足：農業振興課)

鳥取県内の河川、湖沼等において、ヌートリアの営巣が確認され、被害も懸念されていますが、現時点で目立った被害や影響はありません。しかし、生態系への影響を考慮すると、捕獲していくことが必要と考えますので、河川管理者と協議のうえ、対応を検討したいと思います。

なお、これまでも農業被害防止等のため、捕獲を行っています。

<鳥取市内での捕獲頭数>

平成21年	1,618頭
平成23年	921頭
平成25年	665頭
平成27年	325頭
平成29年	212頭(平成29年12月31日現在)

<地域課題>

②中代川の氾濫によって、自動車販売会社の一部が浸水したり、桜ヶ丘中学校から桜谷方

面に通じる橋梁が見えない状態になったりした。特にこの橋梁は、桜谷地域の住民が中学校に避難する際の重要な通路であることから、橋梁の位置を高くする等、災害時も安全に通行できるようにしてほしい。

#### 【都市整備部】

現況として、橋梁とその周辺道路、住宅地はほぼ同じ高さであり、桜ヶ丘中学校の敷地は少し低くなっています。そのため、橋梁が冠水する規模の洪水が発生した場合には、橋梁につながる道路、住宅地及び桜ヶ丘中学校も冠水してしまうことから、橋梁を高くすることは有効な対策とはならないため、洗井川排水機場のポンプ増設等、河川の浸水対策を進めて行くことが必要であると考えています。

(面影地区区長会長)

中代川は、面影山の南側、県道東町若葉台線の正蓮寺と桜谷に位置する二級河川です。日頃は大路川にポンプアップしています。日頃、水は浸かないと思っていたのですが、夕方にかけて徐々に雨足が激しくなり、県道が20cmか30cm、タイヤの半分くらいまで浸きました。民家には被害がありませんでしたが、自動車販売会社の整備ピットが低い所にあるため、浸水によって整備機材も故障しました。大路川の上流には遊水池が設けられていますし、洗井川排水機場もあるのですが、住民としてはきちんと稼働していたのだろうかとの不安もあります。

(都市整備部長)

市道桜谷津ノ井線1号橋と、周辺道路及び住宅地はほぼ同じ高さで、桜ヶ丘中学校敷地は1号橋から50cmほど低くなっています。1号橋が冠水する規模の洪水が発生した場合、同時に、1号橋につながる道路や住宅地、桜ヶ丘中学校敷地についても冠水や浸水が想定されることから、桜ヶ丘中学校は洪水への適用性が低いと判断し、避難場所には指定していません。

これらのことから、1号橋を嵩上げすることが有効な対策とはならないのではないかと考えており、地域課題①でご説明したような、県に対するポンプ場増設要望などの排水対策を行うことによって安全性を確保していきたいと考えています。

(まちづくり協議会長)

現在、地区では防災マップの作成を検討しています。水害の場合、面影小学校は崖崩れと浸水の恐れがありますし、桜ヶ丘中学校と面影地区公民館も浸水の可能性があります。避難命令が出た時に、面影地区の住民はどこに避難すればよいでしょうか。



(防災調整監)

面影小学校は浸水と土砂災害に適用性がなく、桜ヶ丘中学校と面影地区公民館は浸水の適用性がありません。

避難勧告等につながる規模の水害が発生した場合、本市では、その時の雨量や河川の水位、地域の浸水深の見込み等によって、避難先の指示や避難勧告等の発令を判断しています。水害の場合は早めに気象警報等が発令されますし、市としても「逃げ遅れゼロ」を目指し、避難につながる避難準備情報や避難勧告等を早めにお知らせしています。まずは、浸水の恐れのない地域に避難していただくことが大切ですが、それが難しい場合、水害の適用性のない面影小学校や桜ヶ丘中学校であっても、降雨状況や浸水状況を見ながら、まずは命を守るための行動として避難していただき、1階部分は浸水していても、2階や3階なら浸水から免れるような状況であれば、上階に避難していただくことも避難行動の一つです。これを「垂直避難」といいます。

また、夜間等で外に出ることが危険な状況であれば、たとえ避難準備情報や避難勧告が発令されても、外に出ることなく自宅の2階以上に移動することも大切な避難行動です。

あらかじめ自分のまちの災害の特性を十分に把握していただき、日頃、自主防災会を中心として行われる訓練を通じて、どうすれば命を守れるのか確認していただきたいと思えます。

## 2 災害時避難所間の通路確保について

<地域課題>

災害時の避難所として、桜ヶ丘中学校と面影地区公民館が指定されているが、両避難所間における避難者の移動、炊出し、物資の運搬、情報の共有等が重要と考えている。

現在、中学校のグラウンドには防球ネット（8m程度）が張り巡らされているため、地区公民館から中学校へ移動するには、徒歩で10分～15分かかり、緊急時の対応として不十分と考える。中学校と地区公民館をつなぐ緊急通路の開設を要望する。なお、開設する際には、災害時でも安心して通行できる構造にしてほしい。

<担当部局の所見等>

【教育委員会、防災調整監】

ご要望の箇所は校舎から距離があり、平常時における学校の安全性等を考慮すると、出入口に防球ネットを設置することは現段階では困難と考えています。災害時に優先すべきは、避難者の安全だと考えます。移動が発生する場合には、通路の幅も確保された安全な経路での避難をご検討ください。

(地区会長)

桜ヶ丘中学校と面影地区公民館は、避難場所に指定されています。面影地区公民館は調理施設も備えていますので、炊き出し等が必要であれば調理施設を活用し、場合によっては中学校まで炊き出しを運ぶことも想定されます。しかし、校門に回らなければならないため、地区公民館から中学校までは、徒歩で10分から15分かかります。できるだけ早

く物を運搬でき、人も出入りできるよう、中学校のグラウンドに張られている防球ネットを一部開放し、出入り可能なドアを設置してほしいです。併せて、ドアにつながる所の崖を改修し、人が通れるようにしてください。平時はドアを閉めて学校の安全には配慮しますし、鍵は地区公民館で預かります。

今回市役所にこの提案を行うことは、中学校にも伝えていきます。

絶えず私は思っているのですが、教育委員会が地域の隔離された組織に見えて仕方ありません。市役所に要望しても、学校施設や学校のことになると、それは教育委員会だと言って逃げるような感じを受けます。そのようなことのないよう、市長が一言言えば教育委員会も動く組織になってほしいという思いもあります。防犯面で非常に難しいとは聞いていますが、現地を見て、ぜひ地域の趣旨に合うよう改善をお願いします。

(副教育長)

もう十年以上前、大阪府池田市の池田小学校において小学生が襲われるという大変な事件が発生し、それ以来、学校の安全対策が問われ続けています。今回出入口に要望されている箇所は、職員室のある校舎からかなり距離が離れており、教職員の目が行き届きにくい地点です。教育委員会としては、平常時における学校の安全性を考えると、現時点では実施は困難だと考えています。同じ面のテニス場側にすでに出入口が1か所ありますので、出入りができる箇所を可能な限り少なくしたいと考えています。現時点では、出入口は校舎の玄関が適していると考えています。

また、要望地点には段差があり低くなっていますので、近くの川が氾濫すると浸水する恐れがあります。災害が発生して移動が必要になった場合は、避難者の安全性を踏まえて、通路の幅が確保された安全な経路で避難することが重要だと思いますので、ご理解をよろしくをお願いします。

## 5 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

いよいよ市役所新庁舎の建設に着工しましたが、今でも、民意である住民投票が反映されていないとの不満の声が聞かれます。改めて今、市長はどう考えていますか。

(深澤市長)

折しも本日、新庁舎の安全祈願祭及び起工式が行われたところであり、予定では2年後に完成する運びです。

この庁舎問題については、署名活動や住民投票などがあり、その後も住民投票の結果を受けて、あるいは耐震改修案の検証に伴って、様々な議論が交わされました。市議会でも議論がなされ、それらの経過を経て現在に至っています。私は、議論は非常に大切だと思っています。市民の皆様の思いやお考えを、限りなく市政に反映していくことが重要です。

思い起こしてみますと、市町村合併前にも耐震改修等の議論がありました。平成12年2月にも新築すべきとの結論が出され、議会も異論がなかったという経緯があります。その後、平成20年代に入って再度耐震調査を行った結果、震度6以上の場合は倒壊する危険性が高いとのことで、市議会においても、耐震補強か新築かといった議論が重ねられて

きました。耐震改修しても現庁舎の寿命が延びるわけではありませんし、大地震が発生すれば、倒壊はしなくても使用が困難になることが予見されました。配管等も非常に老朽化しており、改修では解決できない状況にありましたし、50年も前に建設された庁舎であることから、バリアフリーやユニバーサルデザインに対応することが物理的に難しい状況にもありました。それらを考え、やはり新築という選択をすべきだとの結論に私自身も到達しました。

議論の過程も大切にしなければなりません、市民の皆様になんたな負担が生じることがないようにしていくことが一番大事です。鳥取市の財政負担を踏まえると、将来を見据えて正しい選択を行い、悔いのないように判断しなければならないと、議会も踏まえて新築移転という選択を行ったものです。

(地元意見)

現本庁舎の建物と跡地について、利活用のビジョンはありますか。

(深澤市長)

庁舎についての様々な議論が重ねられる中で、利活用についても議論を進めようとしたが、利活用を検討するということは新築移転ありきと受け止められることもあり、今までなかなか本格的な議論に至りませんでした。内部ではいろいろな案も出しています。

中心市街地にある大変貴重な用地ですので、多くの皆様のご意見も踏まえながら、今後しっかりと判断していくべき課題だと考えています。

(地元意見)

市役所は我々市民の資産であり、主権者たる我々市民が、市長はじめ職員を雇っていることを忘れないでください。上水道の問題や市庁舎の問題には、かなりの税金が投入されています。減税鳥取、行政改革鳥取を考えてください。都民ファーストという言葉がありますが、鳥取市も市民第一主義でお願いします。

市庁舎問題等について今さら決まったことを覆す気持ちはありませんが、こういう意見もあることを踏まえて市政に取り組んでほしいと思います。

(深澤市長)

ありがとうございました。私も市民ファースト、市民の皆様が第一だとの思いを持ち続けており、その上で、将来を見据えてどのような選択が良いのか、どのような判断をすべきなのかを日々考えています。

今後も、多くの市民の皆様からいただいたご意見やお考えを基に判断していきたいと思

(地元意見)

最近、求人倍数が増えたと聞いています。しかし、仕事を探しに京阪神に行く鳥取市の若者は、いまだに後を絶ちません。若者は流出し、高齢者だけが残されて介護も必要になっていきます。市長はどう考えていますか。

(深澤市長)

大変大きな課題だと思っています。鳥取市の人口減少の大きな要因は、若い世代の方が市外に転出されることです。これを食い止めることで、鳥取市の人口減少をかなり抑制することができると思っています。若い方に鳥取市に残って活躍していただくためには、まず働く場が必要です。本市では、地場産業に対する様々な支援を行っています。また、企業誘致にも努めており、特に将来有望な企業を研究しています。

併せて、若い方に地元に着定していただくためには、働く場だけではなく、子育てがしやすく産み育てやすい鳥取であるべきだと思いますし、何よりも、魅力あるまちでなければ鳥取に残っていただけないと考えています。

なかなか難しい課題ですが、様々なことに総合的に取り組みながら、若い方に定着していただけるよう努めていきたいと思っています。

(地元意見)

進出にあたって企業が心配する事はたくさんあると思います。大地震が発生する可能性があるなど、リスクのある所は企業も進出を避けると思います。鳥取県は、県中部で大地震は発生したものの、全国的にみても活断層の少ない地域だと思います。企業誘致の際には、そういったことをメリットとして挙げればよいと思います。

(深澤市長)

ご提案、ありがとうございます。本市としても、以前から企業誘致の際に、地震のリスクが低いことをセールスポイントとしてアピールしています。

東海地震や南海地震などのリスクが高まっていることから、企業側も地震や災害が比較的少ない所に立地し始めていますし、例えば本社が大きな災害をこうむった場合でも別の場所が機能するように、といったリスク分散も考えています。こういった部分で、鳥取市は災害が少ない、特に地震が少ないと評価いただいているところです。

昨年は地震が発生したり、雪が多いといったこともありましたが、他地域と比較して地震のリスクが少ない地域であることは、今後も大いにPRしていきたいと考えています。

(地元意見)

町内会長として、市長に感謝します。

今年の冬は大変な大雪で、我々は雪かきに苦労しました。除雪活動に対する支援があるかどうか分からないままに多くの町内会員を動員し、中には自前の除雪機で除雪してくれた会員もいます。

そのような中、先日、町内会の除雪活動に対して、すぐにでも活用できる恒常的な支援制度を設けるとの新聞記事を読みました。

どうか今後も、地域の住民の仲間づくりを支える活動に対して目を配ってください。

(深澤市長)

地域の活動に対する支援については、様々な形を用いながら今後も充実を図っていき

いと思います。人口減少や少子高齢化が進行する中で、それぞれの地域における支え合いが今後ますます大切になってくると思います。除雪作業についても、以前は隣同士でお互いに助け合って除雪していたものですが、今ではそれが困難になっている地域もあるように思っています。我々もそういった状況は承知しており、一人で除雪することが困難な高齢者宅等に鳥取市職員が出向いて除雪を応援する制度なども設けていますし、町内会が実施される除雪活動に要した経費の一部を支援する制度も新たに設けようと考えています。除雪活動に対する支援制度については、今後もいろいろなご意見をいただき、進化させる必要があれば、ご意見を踏まえながら検討したいと思います。

何よりも、地域での支え合いを非常に大切なこととして、様々な形で支援ができるよう考えていきたいと思っています。

(地元意見)

まちを見ていると、電信柱と電線があまりにも多くていつもがっかりします。まちをきれいにする取り組みもしているのだらうと思いますが、私は10数年間きれいなまちづくりを願っていましたので、少しスピードを速めてほしいです。外国に旅行すると、田舎であっても電線がなく、きれいです。

鳥取市が観光立国を目指すのであれば、もっときれいなまちづくりを進めてほしいと思います。

(深澤市長)

無電柱化については、全国的に比較するとまだまだではありますが、鳥取市も取り組んできています。

平成元年7月にまち開きして歴史が始まった津ノ井ニュータウンでは、「未来の都市」として全地域が無電柱化されています。鳥取城周辺を走る市道山手通りも、現在、無電柱化を進めていますし、若桜街道等も無電柱化しています。

無電柱化には莫大な事業費が必要なため、全市一斉に取り組むことは困難ですが、無電柱化を進めていこうとする自治体による全国的な組織もあり、鳥取市も加入しています。この組織では、国からもっと支援してもらえるよう要望していこうとしています。

目に見えて無電柱化が進んでいくということにはなりません、本市としても課題として取り組んでいこうとしていますので、ご理解ください。

(地元意見)

砂の美術館は段階を経て成功していると思っていますが、特に冬季における鳥取市の観光はなかなか難しいと思います。砂丘や温泉はありますが、やはり宿泊となると三朝や皆生が中心となってしまい、鳥取市は通過点になると思います。

鳥取市のシンボルといえば久松山だと私は思います。一時期は鳥取城三階櫓の復元の話もありました。「城下町鳥取」を謳って、鳥取城を復興してはどうかと思います。もっとカニや温泉を打ち出して、とにかく泊まれる観光、通過点ではない観光を考えてほしいです。

私は県外から移住してきたので、鳥取市には自然や景観、食材もあるのに残念だと考えています。

(深澤市長)

鳥取城跡については、いよいよ来年、内堀の擬宝珠橋が復元される運びになりました。当初の計画とは少しずれてきていますが、鳥取県立西高等学校に入る所の大手登城路復元工事の一つとして、木造の擬宝珠橋が復元されます。その数年後には中ノ御門、太鼓御門など、かつて大手登城路に存在した城門が復元されることとなります。これは、鳥取市が平成18年に策定した「史跡鳥取城跡附太閤ヶ平保存整備基本計画」に基づいています。30年間の壮大な計画であり、第1期の10年間で大手登城路を整備しようとしています。ゆくゆくは、三階櫓も含め、櫓を復元する計画を持っています。早く取り組んだ方がよいのではないかと、市民の皆様の機運が高まれば、計画を少し前倒しして進めていくこともできるのではないかと、期待も込めて思っているところです。復元された暁には、市内観光の拠点として大いに活用されると考えています。

また、折しも本年は、1617年に池田光政公が藩主となられてちょうど400年という大きな節目の年です。これらのことも観光資源として生かしていきたいと思っています。

## 6 市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げます。

長時間にわたり大変熱心に地域づくり懇談会にご参加いただき、貴重なご意見、ご質問をいただいたことに、まずもって心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

限られた時間でしたので、まだまだご質問やご意見等を十分にいただけていないように思います。この地域づくり懇談会は2年に一度の開催ですので、いろいろな形で市役所各部各課にお気軽にご意見やご質問をいただければありがたいと思います。

本日は、災害対応についていろいろなご意見をいただきました。しっかりと受け止め、今後しっかりと対応していきたいと思っています。

これからまた新たな時代を迎えようとしています。少子化、高齢化は、非常に困難な課題ですが、これらにしっかりと立ち向かい、皆様と一緒に鳥取市の将来を切り開いていきたいと思っています。住んで良かったと皆が思えるまちであり、圏域であるべきだと思っています。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会に大変熱心にご参加いただいたことに重ねて感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。